

神辺西中学校区	校番 36	福山市立神辺西中学校
	最終更新日	2020年(令和2年)4月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 1 長期欠席者が減るよう取り組むこと。 2 短期経営目標では、具体的な策を持って取り組むことで成果につなげること。	児童生徒の現状 ・全国学力学習状況調査について、小学校では、国語・算数ともに県平均を下回っている。中学校では、3教科すべてで県平均を下回っている。 ・小学校では「授業が分かる楽しい」に対する児童の肯定的評価86.0%、中学校では86.7%である。 ・新体力テストの実施結果において、小学校は県平均を超えた種目率が47.9%、中学校は県平均を超えた種目率が70.8%である。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	スキル：知識・技能・・・(基礎的学力) 課題発見解決に必要な思考力・判断力・表現力(コミュニケーション力)・・・(活用力) 倫理観：学びに向かう力と人間性(思いやり) 知：自分の考えを持ち伝え合う子 徳：人の気持ちがわかり協力できる子 体：健康でねばり強い子 ・廉塾規約を基盤とした神辺小学校「すてきな神辺っ子」、神辺西中「四つの心得」の実施 ・神辺西中学校区でめざす授業の姿を共有(主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の実施) ・神辺西中学校区における「21世紀スキル&倫理観」の評価基準による個に応じた指導の実施
---	---	---	---

III 自校

ミッション 地域に信頼され、生徒・保護者より「この学校で、学んで良かった」と高い満足度で評価される活力ある学校	学校教育目標 自ら学び、自ら考え、仲間とともに、将来をしなやかに生き抜く力を身につける生徒の育成	現 状 <児童生徒> ・全国学力状況調査において、国語、数学、3教科で県平均を下回った。課題発見・解決型の設問通過率が低い。習得した知識・技能を実生活に活かす活用力に課題がある。 「主体的に授業に取り組んでいる」79.9%「授業で考えることは面白い」67.3%(生徒) ・四つの心得(あいさつ・言葉遣い・掃除・時間厳守)の取組について、84.4%の生徒が自己肯定感を持っている。コミュニケーション力向上に対する生徒の意欲は高い。 ・家庭学習時間に課題がある、生徒の自己肯定感76.0%、生徒の学校満足度80.5%。 <授業> ・ペアや小グループを活用した授業展開や「あっ」と思う導入や発問、掲示物の工夫により「授業が分かる」と肯定的にとらえている生徒は86.7%である。反面、主体的学び、深い学びには課題が見られる。以下の問いに対する肯定的評価は「授業で考えることは面白い」67.3%、「課題解決を多様な方法で考える」66.2%である。引き続き、「主体的、対話的で深い学び」の授業改善に向け、組織的に取り組む必要である。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) 1年後期① めざす子ども像 2・3年後期②	知識・技能 (基礎的な学力)	課題解決に必要な 思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
			既習事項と新たな知識・技能を関連付け、今後の学習でも活用できる知識・技能として定着している。	情報収集し課題解決に向け、事象を比較、分類、関連付等行い、相手や目的に応じてまとめ自身の考えと関連付け表現している。	既有的知識と関連させて課題を見つけ、学習の仕方や進め方を振り返り今後の学習や生活に生かそうとしている。	
			既習事項と新たな知識・技能を関連付け、今後の学習や実生活の中でも活用できる知識・技能として定着している。	適切に情報を収集・分析し課題解決に向け、事象を比較、分類、関連付等行い、相手や目的に応じてまとめ自身の考えを根拠をもとに明確に表現している。	既有的知識では考えにくい課題に対して学習を進めようとしている。学習の仕方や進め方を振り返り今後の学習や生活、自らの進路に生かそうとしている。	
			教科等	特別活動(学級活動)		
			研究 主題・内容等	「生徒主体の学びを通じ、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を養う授業の創造」～グローバルな視点で、学ぶ意欲と自己肯定感を育む、主体的な学びへ～ ・「課題発見・解決能力」「思考力・判断力・表現力」の育成を目指す。 ・廉塾規約ともつながる「四つの心得」の定着・行動化に向けた取組により、「コミュニケーション能力」の育成を目指す。		
			めざす授業の姿	1 主体的学び(「考えたい」「話し合いたい」「学びたい」を引き出す授業(児童生徒が「あっ」と思う導入、発問、振り返りのある授業)) 2 基礎学力の定着を図り「分かった」「できた」と実感でき、実生活に繋がる授業 3 課題発見・解決力の育成をめざす授業(単元を貫く目標からの逆向き設計) 4 コミュニケーション能力を育成する授業(自身の考えを表現し、対話のある授業)		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立神辺西中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	力せ	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力せ	達成評価	総合評価	改善方策
1	「生徒主体の学びの創造」により自ら考え学ぶ生徒の育成。	★	新規	①基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、その活用能力・表現力を付ける。	○すべての教科で活用問題、文章表現による課題解決問題を取り入れた定期テストを実施、30点以下の生徒割合を把握し、授業改善に取組む。	○定期テスト3 ○点以下の割合を15%以下にする。									
				②学力向上を目指し学力調査の分析と対策を実行する。	○学力調査を分析し、学力向上に繋がる取組みの計画を立て実施する。 教科会を開催し、取組の目標・事項を確認する。	○最低月1回の教科会を開催、成果物、結果を報告する。									
					○全国学力学習状況調査で全国平均正答率以上とする。										
			継続	③家庭学習の定着を図る。	○1・2学期のテスト発表期間中を、ステップアップウィークとし、学習目標を明確にさせ、学習時間の調査を行う。	○毎日、1+(学年×0.5)時間以上の家庭学習をする生徒を80%以上とする。									
3	社会人基礎力を身に付け社会に出て通じる生徒を増やす。		継続	④「四つの心得」(挨拶・言葉遣い・掃除・時間厳守)の定着を図る。	○「四つの心得」に関連した活動を生徒会の主体的な活動として実施する。	○生徒アンケートで挨拶・言葉遣い・掃除・時間厳守の項目における肯定的評価を90%以上にする。									

2	長期欠席生徒を減らす。	★	新規	⑤生徒にとって居心地の良い学級づくり・居場所づくりをする。	○教育相談・カウンセラー会の充実を図る。 組織的, 計画的な取組みを展開し, ホットルームの見直し, SCの効果的活用, HRの充実を図る。	○, 担任は月末1回, 取組報告書・SC利用時相談カードを作成。(SC, 科担当, 主事との連携強化) ○「学級・教師との関係」に係る生徒の肯定的評価75%以上にする。(生徒アンケート)									
3	新体カテストの県平均以上の種目率を高める。		継続	⑥自己課題を見つけ各学年において, 新体カテスト県平均以上の種目を4種目以上とする。	○体育の授業で毎時間ランニング等新体カテストと関連した基礎運動を実施する。	○新体カテストの実施結果において県平均を超えた種目率60%以上を目指す。									
1	授業改善に向けて教職員の資質と指導力を高める。	★	新規	⑦授業力向上のための研修を組織的に推進する。	○一斉研修等, 授業研究の成果を授業改善に生かす。 ○授業参観週間を前後期で各1回持ち, 相互評価し授業改善に生かす。全教諭が新採に対し師範授業と授業参観し, 指導助言する。 ○SDGs 17項目と関連付けした実生活に即した教科授業を年間1単元は仕組む。	○「授業がよく分かる」「授業は好き(楽しみ)」に対する生徒の肯定的評価85%以上にする。(生徒アンケート) ○参観後, 自分に生かせる点・改善点を記入し, 授業者及び教務に返すことを全教諭が行う。 ○OCMに実施単元を明記し, 実施後, その成果と課題を全教諭がレポートする。									

3	保護者の期待に こえ、信頼される学校にする。	継続	◎さまざまな機会と手段を有効活用し、本校の取組を校外外へ広く発信する。	○生徒の学習や生活の取組等を伝える学年だより、学校だよりを発行、HPを更新する。	○学年だより、学校だよりを毎月1回以上発行し、HPを月2回以上更新する。															
				○各学期に保護者アンケートやいじめ防止アンケートを実施し、保護者の学校満足度を把握する。	○保護者アンケートにより、保護者の学校満足度を80%以上とする。															
2	働き方改革に取り組み教職員の健康増進と教育の質の向上を図る。	新規	◎教職員の超過勤務時間を削減する。	○部活動休養日を年間行事予定に基づき、計画的に実施する。	○部活動休養日を確実に実施する。 (週/平日, 土日各1日 実施率100%:週末に大会のある場合を除く)															
				○原則5限の日の部活動終了時間を厳守する。 (生徒会活動、職員による下校指導の充実)	○5限の日:完全下校時刻17:00、6限の日:夏場17:45・冬場17:15を守れる日、100%を目指す。															
				○業務改善に努め、職員の退校時間を早める。19:30以降の在校は報告する。	○職員の平均退校時間を前年比、-30分とする。															

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。